

つたのミニネタコーナー

ミニネタ
No.44

「不親切な教師」になって
子どもを育てよう

松尾英明著『不親切教師のススメ』(さくら社)を読みました。書籍から「教師は親切すぎる!もっと楽になろう。そうすれば子どもは育つ!」というメッセージを受け取りました。松尾氏と期せずして同じ考えに基づく実践をしていましたので紹介します。

① 日直廃止

黒板消し、日付書き、電気付け、号令、窓の開け閉め、朝の会の司会などを廃止しましょう。これらの仕事をどうするか?「早い者勝ち、やりたい人がやる」方式にします。その子が「もうやめます」と言う日まで続けてもらいます。希望者がいない仕事は教師がやればいいだけのことです。

② 掲示物は放っておく

学級通信などの各種通信や名簿などは掲示板付近の机や棚にそっと置いておきます。そのうちに「先生、これ貼ら

ないの?」と聞いてくれる子がいます。その子に「ありがとう。君の思い通りに貼ってくれる?」といって掲示物を任せてみましょう。

③ 配布物

日々配布されるプリント類。教師が配るのでなく、気がついた子に配ってもらいましょう。最初は「誰か配ってくれる?」と聞けばいいでしょう。配ってくれた後はその子に「ありがとう、助かったよ!」と謝辞を送ります。きつと次の日からも引き受けてくれるはず。もしやってくれなくても問題ありません。もともと教師の仕事です。自分で行きましょう。

とすれば教師がやってしまつて「当然」となっている仕事を思い切つて子どもに任せましょう。「教師が楽になる」子どもが育ってきた」ということです。